

星屑

2021年9月号

No. 558



M8 いて座の散光星雲

M8 いて座の散光星雲

2021/08/05 R-200SS QSI-583ws 露出 35分

がんばるばい 熊本！ 熊本県民天文台

7/14(水)、城南図書館の展示を更新

レイアウトを大きく変更して、「展示が変わった!」を演出、ペルセウスの解説も追加

城南図書館ロビーの展示を、「夏」に更新しました。今まで使っていたコルクボードを、今回は使わないことにしてみました。パツと見て、雰囲気が変わった! と、思ってもらえるかも・・・、そんな効果を期待しました。

解説のメインの内容は、流れ星とペルセウス座流星群の解説+夏の星空(星座絵図)です。例年の「夏」と内容の大筋に大きな変化はありませんが、古墳公園での「コロナ対応一般公開」や、玄関前広場での大画面解説の様子を、A3サイズに大きくプリントして展示。コロナ時代の公開の様子が伝わるようにと考えると、更新しました。



7/17(土) 一般公開を再開しました

古墳公園の芝生の広場、東屋に解説場所を設営

風通しの良い広い場所で星空を見上げ、星の名前や星座を解説しました



■ 一般公開 20:00~21:00

来台者: 1組 2名

観察場所: 古墳公園の東屋付近

観察: 花火、夏の大三角、春の大曲線、へびつかい座、北極星、さそり座、いて座、天の川、こと座、はくちょう座。

解説: スマホやデジカメでの星空撮影法等。

来台者の感想: 楽しかった、電視観望ができたら面白そう、また来ます

■ 準備作業

19時前から準備を始め、まず、東屋へのスクリーン設置を試行しました。150インチスクリーンを取り付けるには、スクリーン支持板にあと一工夫が必要でした。110インチ(4:3)スクリーンなら、現状ですんなり設置が可能です。

100インチ(16:9)スクリーンも、少しの工夫で取り付けできそう。

雨雲が頭上にあっただので、スクリーンやプロジェクターは準備・確認までにし、そのまま20時まで待機。20時頃親子2人が来台、同時に花火が打ち上がり始めたので、しばらく花火を楽しみました。その後、星空を見あげ、レーザーポインターを使って解説。スマホで撮影した星空の写真や、デジカメのモニター画面を見てもらったりし、最後に、記念撮影をし

て、21時頃終了。ちょうどそのころ雲が広がったので、撤回しました

■ 東屋付近での一般公開について

やはり屋外の広い場所での一般公開の方が感染を防止する上では安心です。機材もそろっていますので、今夜やってみて確かな手応えがつかめました。来週は晴れそうですから、コロナの感染が急拡大しなければ、次回は、プロジェクターやスクリーンも使ってみようと思います。今夜は、私（艶島）1人で公開しました。

7/24(土)、城南図書館で「夏の星空観察講座」 星座早見の使い方とスマホで星空撮影法を解説

参加者からの質問に応えての解説も実施、途中で数回「換気のための休憩」も



参加者は9組16名。星座早見の使い方、星座の由来、月や太陽が低空で赤く見える理由、星はなぜ見えるか？、金環日食が起こる理由、等々・・・、基本的なテーマと、事前に頂いた質問への解説を中心に展開。夏休みの自由研究に役立つ「スマホを使った星空の撮影法や撮影例」も解説しました。

会場で、追加の質問があったり、終了後に「ブラックホール」についての質問もあって、予定時間を延長しての解説になりました。

室内での解説ですし、未就学児童もいるという状態でしたが、皆さん最後まで楽しんで下さった様子。片付けが終わったら、図書館のスタッフの方々も満足そうに声をかけて下さったので、ホッと安心しました。

観察講座で使った、ダイソーの「星座早見盤」 「使い方」の説明が適切で 意外なほど使いやすいです



■ ダイソーの星座早見盤

城南図書館の「星空観察講座」では、夏休みに入って「星の観察を自由研究の課題にしたい」と考えている親子を対象に、「星の観察法」をわかりやすく解説したい、という目標がありました。それで、「星座早見の使い方」の解説を重要なテーマとして設定し、参加する一組毎に1枚の星座早見盤を提供することにしたわけです。



その際に採用されたのが百円均一ショップ=ダイソーで販売されている星座早見盤でした。

■ 使い方の説明

「講師用に」と事前に手渡されたとき、「えっ?! ダイソー製ですか!?!」と一瞬たじろいなのですが、手に取ってみてビックリしました。外装にプリントされている「取扱説明」が秀逸なのです。「方位を確認しながら、地平線から天頂までの空を見あげる」という熊本県民天文台で長年推奨してきた使用法の説明が、ほぼそのまま採用されているのです。

「これは使える!」→ 大急ぎで、「星座早見の使い方」を解説する電子紙芝居を改訂。この星座早見盤の画像に、すべての画像を入れ替えました。

■ 時刻合わせも

九州での観察時刻を「ピンクの矢印」で合わせることができるようになっているのもおすすめポイントのひとつです。百均で販売されている「星座早見盤」がここまで進化していたとは驚きました。

図書館が使える予算が少なかったのでダイソー製が採用されたのですが、それがかえって良かったようです。

「星座早見を使えば、その日その時に夜空に見える明るい星の名前がわかります」という私の解説を、参加者達が大きく頷きながら自分たちで確かめている様子を見て、私はとても嬉しくなっていました。

いろんなところで推奨しようと思います。

7/24(土)、充電式のポータブル電源を使って 古墳公園の芝生の広場・東屋付近で一般公開

■ ポータブル電源が初登場

芝生の広場の東屋にスクリーン (110インチ、4:3)を設置、充電式のポータブル電源でレ-



ザープロジェクターとノートパソコンを駆動し、ワイヤレスアンプはバッテリーで駆動。長いコードリールでAC電源を引くことなく、好きな場所で各機器を運用することができました。

■ 来台は7組24名

7時45分頃、準備が完了したと同時に2組が来台され、スクリーンの前にレジャーシートを広げて、場所取りを完了。「早く初めて欲しい」と

いう雰囲気だったので、すぐに解説を始めました。すると、続々と、来台者が続きました。さすがに夏休みですね。自由研究をやりたい子ども達も居て、星空の観察法や記録の仕方の説明には、メモを取ったりして熱心に食いついてくれました。

ここでも、スマホを使った星空の撮影法を説明。実例写真も紹介して、それを自由研究にどのように使うか、という活用法も説明。すると、あれこれ、質問が出て、とても楽しい一般公開になりました。薄雲は広がっていましたが、夏の大三角や春の大曲線、さそり座付近、へびつかい座のラスアルハゲなども見えて、星座の解説もかなり受けていました。

■ 解説への反応

21時半頃、一旦おしまいにして、片付けを始めようとしたら、「8月11日・12日頃、西の低空で細い月と金星が接近する。スマホで撮影したら良い記録になる。」という解説について、もっと詳しく説明して欲しいと、追加の質問がありました。そこで、お住まいの地域を確かめてから、グーグルマップを使い、ご自宅近くで西側の見通しが開けていそうな場所をさがし、「このあたりで西の低空を観察し、撮影してみてください。」「事前に、本当にそこで西の低空が見えるか、確かめておいてくださいね」と念を押しておきました。

まあ、これくらい熱心に質問してもらえると、解説する側としてはとても嬉しいです。

・・・、こんなふうで、今夜の一般公開は賑わいました。

新型コロナの感染が急拡大しているので、いつまで公開できるか、やや微妙です。

→ **7/28(木)、一般公開を休止すると決定、29(木)にWebで告知**

☆☆☆☆☆☆

これからの予定

☆☆☆☆☆☆

※ 新型コロナの感染状況により中止や延期になる場合もあります

★ 9/11(土)、**環境センター主催**

「星空観察会」 環境センター（水俣市）で開催

☆ 10/15(金)、**フィールドミュージアム**

「月の観察」 電子観望も実施予定

こんなところで彗星発見

Porco Nisse

M.Okuda 2021/07/25.788

★ C/2021 O1 (Nishimura)

静岡県掛川の西村栄夫氏が、7月22日早朝 200-mm F3.2 レンズで、ぎよしゃ座を撮影した検索画像から発見した新彗星だ。翌23日に確認観測して報告、PCCPに掲載された。発見時拡散状態でコマ径2.5'、光度は10等級だった。

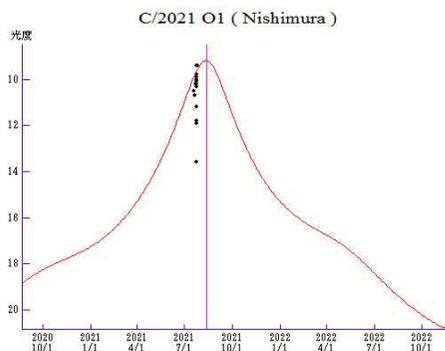
翌24日には国内の彗星観測者達によって観測され、また千葉県船橋の張替氏が撮影した7月18日と19日の検索画像上にも写っているのが報告されて、軌道が計算された。8月12日の近日点通過・その距離0.80auに向かって移動しているとわかったのだ。ここまでの話では順調な発見と思われるかも知れないが実際はとんでもない発見だったのだ。

彗星は薄明開始時の高度が4度以下で、その観測条件はどんどん悪くなる状況にあった。例えばKCAOの40cmが向けられない超低空を動いていたのだ。以後の観測も薄明中の悪条件下となったのは言うまでもない。発見前もずっと夜明け前の低空を動いていた。前にZTFの検索でアマチュアの発見は終焉を迎えるかと書いてしまったが、まだまだアマチュアの探索も捨てたモノではないと思わせる発見だった。

彗星は太陽に接近して、既に地上からの観測はできなくなっている。SOHOの視野に入るのは10月からだ。次に地上から観測可能となるのは12月、既に暗くなっているはずだ。なお、西村氏にとって2個目の新彗星発見となる。

★ 4P/Faye

9年8月19日に近日点を通過するの彗星が尾を持つ姿で11等と明るくなってきた。8月はおうし座、スバルとヒアデス星団の間を通過する。夜半過ぎから夜明け前が好条件になるので観測しやすいとは言えませんが、これからもう少し明るくなるので見ておきたい彗星だ。

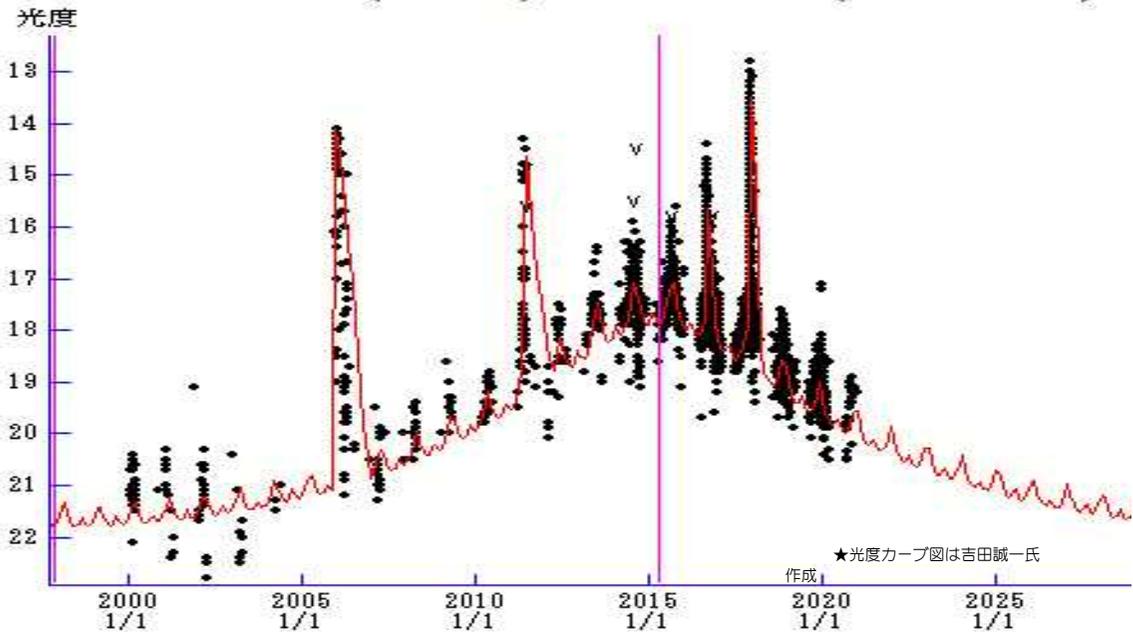


★光度カーブ図は吉田誠一氏作成



大きな彗星の話 Porco Nisse

174P/(60558) 2000 EC98 (Echeclus)



今回は大彗星、つまり大きな彗星の話だ。決して明るい彗星ではない…明るいものもあるけど。とりあえず思いつく彗星を表にしてみた。まずは彗星界のトップスターを代表してのハレー彗星を入れた。29Pは不定期にバーストすることで知られる不思議な彗星だ。そして大きな小惑星でもある95Pと174Pも大きな彗星だ。明るい彗星でもある C/1995 01も大きいので当然入れた。最後は今年彗星登録されたばかりの C/2014 UN271(前号参照)だ。データはJPL等の資料から収集した。

1Pは1991年2月にバーストしたのが観測されている。この時の日心距離は14.3auだった。

95Pは1989年にコマが観測された。日心距離は10.6auだった。2011年11月の食で対象ジェットが観測された時の日心距離は17auだった。

174Pは2005年12月に日心距離13auでバーストして14等になった。その後も幾度かバーストした(上図参照)。2021年1月19日にこの星による恒星食が観測され、実直径59kmを追認する結果が得られたと報告された(天界2021年8月号)。コマに隠れている彗星核の実直径を決定するのは非常に困難だが、小惑星の恒星食は信頼できるデータを得る貴重な機会なのだ。

C/2017 K2は今のところ特別なイベントもなく順調に増光している大きな彗星だ。

C/1995 01 は近日点通過の11年後の2007年10月、日心距離25.7auで彗星活動が観測された。さらに2012年8月には日心距離30.2auで彗星活動が観測された。これらはCOの昇華によると思われるという。

ここまでいくつかの大きな彗星の振る舞いを振り返ったみたのは、C/2014 UN271の今後に期待できるか考察の参考にするためだ。現在この彗星は日心距離20auのところにいるのに既に光度17等の観測報告もある。オールトの雲から降りてきた新彗星は明るくならないとよく言われるがそれは太陽に接近しての話だ。近日点距離が11auの大きな彗星がどうなるか…興味は尽きない。

彗星名	軌道長半径	離心率	周期(年)	軌道傾斜角	実直径	反射率	Mo
1P/Halley	17.8au	0.967	75.3	162.3	15x7km	0.04	5.0
29P/Shwassman-Wachmann	6.0au	0.044	14.7	9.4	60km	0.03	4.0
95P/Chiron	13.7au	0.377	50.7	6.9	166km	0.15	5.5
174P/Echeclus	10.7au	0.457	35.1	4.3	59km	0.08	9.2
C/2017 K2 (PANSTARRS)	—	1.001	—	87.5	14-80km	0.08	1.0
C/1995 01 (Hale-Bopp)	182au	0.995	2456	89.2	60km	0.04	0.8
C/2014 UN271	35531au	0.999	6697850	95.6	200km	n/a	0.0

「あのマースデン(Brian G. Marsden)が来るんだ、彗星界の『天皇』と呼ばれている人だぞ。今度の彗星会議、行かないという手はない。」

と、小林寿郎さんから彗星会議に誘われました。その後の経緯は忘れましたが、とにかくこの年の3月、私と小林さんは熊本から神戸の堀田守男さんの所に寄って、第17回彗星会議が開催される静岡まで出かけたのでした。これが私の彗星会議初参加。1987年、今から34年前のことでした。

半世紀続いた彗星会議

副題 私と彗星会議 高田ゆういち

これまで、いくどか彗星会議の参加報告を「星屑」で記事にしました。ところが今回のコロナ禍で、去年と今年の彗星会議が中止となってしまったのです。星屑の編集をしている中島さんから「彗星会議の記事がないなら、知らん人も多かけん、今回は『彗星会議』の事は記事にせんね?」と持ち掛けられました。言われてみればそうですね。

記事中ではいつもの型切文句で「全国から彗星の観測、研究をおこなっている人たちが年1回集まる『彗星会議』」と説明をいれてましたが、やはり伝わっていないところがあります。

そこで、今回は総括で「彗星会議」の記事を書きます。もともと、半世紀、49回も開催されたこの会議をきちんとまとめて書くのは難しく、そういったものは、はなからあきらめて、かなり私的な覚えているエピソードも綴ることにします。また、場所や時代があっちこちに飛びますが、そこもご容赦を。

いきなり話は50年前に戻ります。1971年。

この年、長谷川一郎氏、関勉氏が、国内の彗星観測者、研究者に呼び掛けて愛知県蒲郡市で「彗星観測者会議」を開催します。名称こそ違いますが、これが彗星会議の第1回目になりました。このとき参加者は52名。大変盛況だったため、年1回の開催を決めます。そして、第2回は、関勉氏の地元高知で開催されました。以降、毎年1回の各地持ち回りの開催が続くことになりました。

各地を持ちまわるというスタイルは、地元の若い世代の人を触発し、新しい世代の人を育てるという利点もあります。第6回(1976年)は、宮城県仙台で行われました。このとき、隣の福島県から卒業間近な一人の中学生が単身参加します。この会議で刺激を受けた彼は、その後大学で彗星など太陽系小天体の研究に勤しみ、天文学者となります。現・国立天文台の副台長である渡部潤一氏です。

渡部氏以外でも、若いときに彗星会議参加され、のちにプロの研究者になった方が幾人もいます。彗星会議で記念講演をされると、話の途中で「彗星会議には、頭があがらない人が何人もいらっしゃいます」という言葉が出てきます。

もちろん、プロだけではなくアマチュア研究者の発表の場にもなっています。私も、熊本にいただけでは出会うことがない、そんな人達と知り合うことになりました。

ここで、冒頭の第17回静岡(1987年)に戻ります。初めて参加する天文の会議で、私は大勢の参加者の熱気に当てられます。壇上で発表するのは、いかにも研鑽を積んできたという観測者・研究者の人ばかり(少なくともそう見えた)です。

ところが、2日目の研究発表で様子が変わります。私と同年代(つまり学生)と思しき2人が、自分達が発表する資料を会場で配り始めたのです。どうも、夜どおし資料を手直ししていて、発表直前にコピーしてきたらしいのです。こんな人たちもいるんだーと、同世代の彼らに親近感を持ちました。

このうちの一人は菅原賢さん(現・厚木市こども科学館)で、2年後、私は就職で横浜に行ったあと、彼らとつるむことになります。このときはそんな事思いもしませんでした。

翌年(1988年)の第18回は、栃木県で、てっきり小林さんも行くとはばかり思っていたら、

「わしゃ、(皆既日食で)小笠原行くから、おまえ俺の代わりにちゃんと行って来いよ!九州の全権大使なんだから」

と言われてしまいます。その時、売り言葉に買い言葉ではないけど、なぜか

「バイクでツーリングしながら彗星会議に行きます!」

と言ってしまいました。何であんなこと言ったんだろう?とにかく熊本を出てから10日目に宇都宮に到着。会議の運営委員会では、みかんブランデーと辛子レンコンをお土産に小林さんの代わりに参加してきました。

その会議の最後でアナウンスがあって、定期的に東京の国立天文台で彗星の勉強会を開くので参加者を募っている、もちろんアマチュアにも門戸が開かれているとのこと。行きたくても熊本からだ無理だなーと思っていたが、これも就職後参加できることとなりました。もちろん、そんな事思いもしませんでした。

この時の彗星会議で仙台天文同好会の遊佐徹さん(現・大崎パレット)と知り合います。彼を頼って、そのまま仙台を訪れ、仙台市天文台に泊めてもらったり、またそこから足を延ばして青森まで行ってきました。結局、熊本に戻ったのは、出発してから26日目というという長期ツーリングになりました。

その後、第21回彗星会議(1991年東京・八王子)では、実行委員の一員になっており、物販の担当として、オリジナルトレーナーや、オリジナルテレホンカードを作って参加者に売ったりもしていました。そのときの会場の写真は次ページです。



第21回彗星会議の様子
長谷川一郎氏が総評を述べられている。

エピソード的なことを連ねると、第23回(1993年)、中野圭一氏の地元、淡路島での彗星会議。夜の懇親会の時だったと思う。IAUC(国際天文学連合回報)で、発見されたばかりの新彗星の情報が入ってくる。「なにになにー」と親分肌の鈴木文二氏が、英文を参加者の前で読み上げながら、ホワイトボードに読み取った情報から姿を描いていく。新彗星は、棒状の中央集光がありその中にいくつか光っている点がある。その時の感想は「なんじゃーこりゃー」。

これが、その後、中野圭一氏等の軌道計算により、2年後の木星衝突が予測され、実際にそうなった、シューメーカーレビー第9彗星(D/1993F2)の第一報でした。

第24回会議(1994年、仙台)では、彗星会議の実行委員長が、初代の長谷川一郎氏から渡部潤一氏にバトンタッチされます。

第25回会議(1995年)は地元・熊本で開催。各地からの参加者で知り合いが増えた。

第27回会議(1997年)は、滋賀県・琵琶湖湖畔のホテルで開催。この時「ヘールポップ彗星(C/1995 O1)の自転軸の考察」というようなタイトルで研究発表をする。発表は2日目であったが、このときはIAU(国際天文学連合)の総会も直前に開かれていて、外国人研究者も多数参加。実行委員から、発表はともかく概要は英文も用意するようにと現地で言われて、夜遅くまで英訳に苦勞したのも思い出します。

その後、会社での仕事が忙しくなったのと家族ができたので、しばらく参加できていない。第35回(2005年)の福岡の開催は、近くなので行きたかったのだが、息子のお宮参りで行けず。ちょうど地元の神社に向かう途中で地震。この時、彗星会議が行われている当の福岡では震源に近く震度6弱となっていた。幸いなことに会議参加者には被害はありませんでした。

その後会社勤めをやめ、自営業になったため、再び彗星会議にでれるようになった。それ以来かかさず参加している。(2013年-)

第46回(2016年)の福井での会議の頃だったと思うが、九州担当の運営委員になる。小林さんもそのまま運営委員。

第49回(2019年)は、宮城の遊佐さんが実行委員となって、地元大崎市で開催。その直前、私がFacebookで遊びで作っていた「太陽系小天体かるた」が遊佐さんに見つかった、彗星会議の懇親会の余興でやってくれと頼まれる。

実は30年前お世話になった一宿一飯どころか三宿のお礼がずーっとできていなかったことが心に引っかかっている、それならばと「懇親会参加者がへべれけに酔って前後不覚になった時だったらいいですよ」と返事しておいた。

実際は懇親会会場にわざわざプロジェクターとスクリーンを運びこんで用意されている。こちらも腹をくくって(?)派手にやってきた。一応、参加者に喜んでもらった…と思う。

そして記念すべき50回目は、第1回目の発起人の関勉さんの地元高知で開催し記念講演を、と計画されていたところで、このコロナ禍が始まってしまったのでありません。1年を超えるコロナ禍で、高知での開催を断念せざるを得ませんでした。

いつもなら、彗星会議に合わせて開かれる運営委員会が、2年振り6月12日オンラインで開かれました。もちろん小林さんも私も参加。ここで、実行委員長を含め運営メンバーの交代が了承されました。彗星会議が始まって50年、これを期にはないでしょうが、新体制となりました。他に、記念誌発行の編集方針と資料集めの協力が呼びかけられました。

この記念誌ですが紙でも発行ですが、電子版は無料でダウンロードできるようになるそうです。もちろん第1回から49回までの彗星会議をまとめてあります。公開は来年(2022年)の予定です。お楽しみに!!

最後に。この記事を書くにあたって、昔の「星屑」を読み返して、「情報発信」が今のように簡単にできなかった時代というのを思い出しています。そんな中、1年に1回だけと同じ興味を持つ者が集まって直接、話をし議論し親睦を深める、どれだけ彗星会議が貴重なものだったか。

それと同時に、単純な情報発信や、オンライン会議で、全部代われるものなのか?とも思います。いや決してそんなことはないだろうと、昔をおもいだしながら書き終えた後考えています。

今は、コロナ禍で人が集まるということが困難な時期です。安心して顔を合わせられる時が、早く来ないかと願いながら筆を置きます。

〇〇
(.)
(★)

ちよつと一服

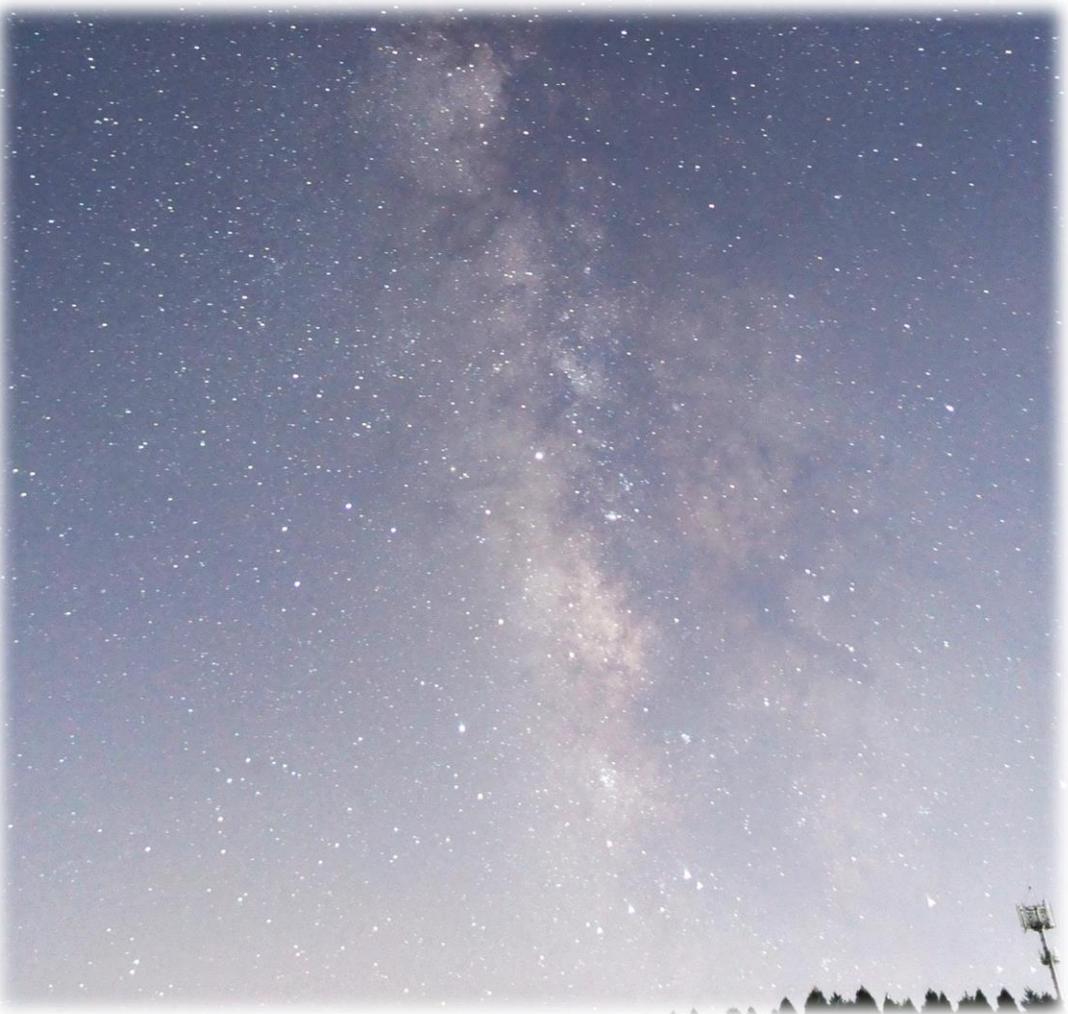
Poem & Illustration

雨です。もう、連日雨続きです。8月とは思えないお天気です。「6月から7月初めにかけて、さっぱり星空撮影どころか、星を見ることすらできませんでした。」って、先月号で書いたのですが、今月はさらに輪をかけて星空と無縁です。最後にお日様を見たのは10日でしたか・・・(と書いて原稿出そうとしたら、雨が上がりました。久々の太陽です。しかし、週間予報ではまだまだ傘マークが多いです)

その前の週は、水曜に2回目のワクチンの接種やらなにやらで星空確認もしていない・・・(ちなみに、ワクチン接種、ひどい副反応もなく、無事済ませました)

夕空の金星と、夜の木星・土星が見ごろのはず、なんですが。木星の衛星の相互食とか、ペルセウス座流星群とか・・・夏の天の川も撮影したかったのに。代わりに大雨警報やら避難指示でスマホは鳴りまくるし・・・なんなんですかね？この、雨。

ということで、仕方なく、2018年7月に撮影した天の川です。



とりあえず

あさ 外を眺めてみる
傘をさしてごみを捨てに行く

ひる 外を眺めてみる
合羽を着て一週間分の食料を買い出しに行く

よる 外は眺めない
雨音を聞きながらパソコンのキーボードを打つ

あさ 外を眺めてみる
ずぶずぶになった庭に 雑草が生い茂っている

ひる 外を眺めてみる
ブルーベリーの実が割れて垂れ下がっている

よる 外は眺めない
スマホから警報音が鳴り響く
大雨とコロナをてんびんにかけて 家に留まる

切手の中の夜空が 鮮やかだ



By Dio

2021年7月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率 3日／5日＝60%
一般来台者数 57名

総開台日数 6日
会員来台数 9名

日付	天気	担当運営	来台数	記 事
3日(金)	雨	艶島	30名 ほど	NPO法人えみしあ 七夕星空講座 10:00-11:30 七夕、夏の星座、そして宇宙 七夕・星座の由来・夏の星座・星空の名所・ブ ラックホール・スマホで星の写真を・など解説 障がい者の就労支援施設でしたが、質問もたく さん出て、とても喜んでもらえました。
4日(土)	雨	艶島 高田 中島	0人	Talk about 先月の活動報告、来月の予定確認等 コロナ下での活動についてなど
11日 (日)	曇り	艶島	0人	望遠鏡制御システムのアース線保護工事 アース線を電線管で保護しました。
17日 (土)	曇り 時々 晴れ	艶島	2人	夏の大三角・へびつかい座・さそり座・春の大 曲線などを解説 スマホやデジカメでの星空撮 影方も。 久しぶりの一般公開。楽しかったと行ってもら えました。 東屋へのスクリーン設置テストも実施 100インチのスクリーン
24日 (土)	曇り	艶島 高田	24人	東屋にスクリーンを張って星空解説 春の大曲 線・金星・満月と月の暈・金星と月の写真の撮 り方など 最後まで残って話をしていた熱心な親子を会員 に誘う。
27日 (火)	晴れ	艶島	1人	県環境センターの方と9月11日(土)「星空 観察会」の打ち合わせ 観測室の2台のPC OSアップデート 短い時間で完了

QSI583wsの試写

なかなか晴れる日がなくて、写真を撮れない日が続いていたが、8月の初旬は晴れた。月も小さくなっていたのでいよいよQSI583wsの試写をおこなった。

今回の鏡筒はいろいろ迷ったのだが、とりあえず赤道儀に乗せていたR200SSで行くことにした。雨の間に屋上のパソコンを下ろして、いろいろとチェックをやっていたので、持ち上げてセット。前回、ガイドが不安定だったのはUSBケーブルの問題だったようだ。交換したらずいぶんと安定した。



冷却を済ませて、まだ空が明るい中にフラットを撮影。それからダークとフラットダークを撮影して準備完了。最初はM4に向ける。その後M8・M20・M33・M45と撮影して終了。M45の最後は天文薄明が始まっていた。久しぶりのほぼ徹夜で、なかなか疲れたが、いい星空を満喫した。

折角の晴夜なので、撮影はパソコンに任せて屋上で星野写真も撮ってみた。デジイチを太陽観測用の赤道儀に載せ撮影。簡単に撮影するため30秒露出。いろいろと撮ってみたが、やはり地平線付近は光害の影響が大きい。フィルターがないと厳しいな。合間に空を眺めていると、結構流れ星も見えて楽しめた。大満足の一晩だった。

結局、今年の夏の撮影シーズンはこれで終わってしまった。その後は長雨でとても晴れ間も見えず、レンズのカビの心配が必要な天気だった。畑の手入れもできず、運動不足の夏。今日の晴れ間をしっかりと活用したいものだ。

暑い日が続きますねえ。意外とあっさり梅雨明けしましたが、スッキリしない日の多い事。なかなか撮影できませんね。まあ、撮影する時間もとれませんが。しかし最近の天気は、梅雨に限らず地域限定で滝のように雨が降って、道路が冠水って全国でありますね。海外でも大雨で洪水とか。でも熊本では、全体的には水不足なのだそう。なかなかうまくいきませんね。さて、今年の中秋の名月は、満月でもあります。お月見楽しみましょう。

☆9月の天文現象&行事☆

- 6日(月) 金星とおとめ座 α 星スピカが最接近
- 7日(火) 新月(09:52)
白露(はくろ…秋の気配が強まり、草木の葉に露が白く光るという意味)
- 8日(水) 月が火星に最接近
- 9日(木) 小惑星パラスが衝(17:44 8.6等)
- 10日(金) 細い月と金星が接近
- 11日(土) トークアバウト(20:00~ 変更の場合あり)
- 14日(火) 上弦(05:39)
水星が東方最大離隔(13:24 0.2等 視直径7.0")
- 15日(水) 海王星がみずがめ座で衝(06:24 7.8等 視直径2.4")
- 19日(日) みずがめ座 τ 2星(4.1等)の食(福岡 暗縁から潜入 20:39→21:51)
- 21日(火) 中秋の名月 満月(08:55)
- 22日(水) 水星とおとめ座 α 星スピカが最接近
- 23日(木) 秋分(しゅうぶん…昼夜同じ長さ(等分)になる日で秋分。秋の彼岸の中日)
- 27日(月) 水星が留(13:08)
- 29日(水) 下弦(10:57)

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2021年9月号 通巻558号
 発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226
 熊本県熊本市南区城南町塚原2016番地 熊本県民天文台
 TEL 0964-28-6060
 振替口座 01700-5-105697
 NPO熊本県民天文台事務局
 天文台ホームページ <http://www.kcao.jp/> メールアドレス astro@kcao.jp
 メーリングリストの加入申し込み受付中 kcaohige2003@yahoo.co.jp 中島まで